

令和4年度第3回安城市スポーツ推進審議会 議事録

日 時	令和5年3月17日（金）午後2時～3時
場 所	東祥アリーナ安城 3階 第4会議室
出席委員	野村富雄委員、四ツ井初美委員、杉山恵子委員、前田光成委員、石川恭委員、藤野奈緒子委員、小森義史委員、園田直哉委員
欠席委員	香村直廣委員、鈴木俊貴委員
事務局出席者	教育長（石川）、生涯学習部長（加藤）、スポーツ課長（津口）、施設管理係長（岩井）、スポーツ振興係長（内藤）、スポーツ振興係主査（小木曾）
次 第	1 市民憲章唱和 2 あいさつ 3 議題 （1）第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和4年度事業実績について ア 個別事業の実績について イ 目標値の達成状況について （2）第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和5年度事業計画（案）について

1 市民憲章唱和

2 あいさつ

石川教育長、野村会長

3 議題

（1）第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和4年度事業実績について

ア 個別事業の実績について

【事務局説明】資料P1～40

【質疑応答】

（委員）

19ページの「GTRニッセイクリニック」について、明祥中学校へ監督と部員含め4人で訪問し、クリニックをさせていただいた。クラブ活動が1時間余りということで本当に短い時間ではあったが、スポーツ課の皆様からのご協力を得ながら段取りもしっかりできて、選手も喜んでいました。野球部ではこのような地域活動をしているという発信を会社でもできたことは、非常にありがたかった。来年もこのようなことがあればぜひ活動していきたいと思っている。

（委員）

昨年特別巡回ラジオ体操を開催していただき、非常に多くの方々に参加された。この特別巡回ラジオ体操というのは、定期的に本市に回ってくるものなのか。例えば10年に1回といったように。

(事務局)

基本的には周年事業で開催をお願いするものである。NHKさんも申込が多いために、周年事業の中でお願いしてようやく受けてくれるというパターンが多い。特に今年度は、愛知県でも周年事業で行う予定があったために本来は難しい状況だったが、夏休み期間ではなくてそれ以外の期間で何とか受け入れてくれることになった。県内で2つ開催するというパターンは通常ないが、何とか開催していただいた。周年事業以外で受けてくれることはなかなか難しい。

(委員)

次の80周年の場合だと、数年前から依頼をしていかないと難しいということか。

(事務局)

数年前からというわけではないが、日頃からNHKさんには継続してお願いができていければいいと考えている。

(委員)

あれだけ大々的にやると、改めてラジオ体操に取り組んでくれる人が多いと思うので、次回の周年の時もぜひ企画していただけたらいいと思う。

(委員)

15ページの「スポーツ情報の提供充実」の中の、生涯学習情報誌「あんでな」各号や広報あじょうへのスポーツ情報掲載について、大変見やすい記事で募集がかかっていると思う。ただその一方で、市スポーツ協会がやっているスポーツ教室の募集については、今年からQRコードを使って中身をご覧いただくかたちになったが、記事が結構省略されてしまって募集が始まっていることに気が付かなかっただとか、特に年配の方々も携帯を持っていてもQRコードで情報を読むことが非常に困難なために中身がわからなかったという声をたくさん聞いた。年齢的に得意な方もいればそうでない方もいるので、ぜひスポーツ教室の告知等はわかりやすい形でお知らせいただけると、より多くの方々に参加いただけるのではないかと感じた。

(事務局)

「あんでな」については生涯学習課が管轄しているが、現在の市の生涯学習系の情報誌の方向性を申し上げると、令和6年度からは簡略化していくという方向性が出ている。事業の中身を見直して経費の面からも検討するという流れの中でそういった方向性が出ている。そうなると、いくつかの限られた情報量の中でいくつかのものをお示ししていくこととなると、時代の流れもあってQRコードといったものでお出ししていくことが多くなると思っている。ただ私自身も、委員が今いろんなところから聞いておられるようなことを感じており、言い方が適切かはどうかはわからないが、いわゆる「情報弱者」のような、スマホを使いこなしているところまでまだいっていないことを鑑みると、QRコードも使いながら、今までと同じような冊子ではないかもしれないが、色々なことを工夫して皆様に情報が行き渡るような工夫をしていく必要があると感じている。

(委員)

今までこういった形で長年見ていた方にとって、急にそのページが省略されることは思いもよらないことで、それに対して対応できなかつたり、そもそもそういう認識がなかつたりということがあつた。もちろん新しいことにチャレンジすることはいいと思う。広報あんじょうで外国語のページが削除されるということを見たが、今までは日本語がわからない方に対してページを翻訳してくれるところがあつたので、その分ページが軽くなり工夫してらっしゃるんだなと市民として感じている。その一方で、従来の形を求めている方も多く、スポーツ教室はそういった方がほとんど対象なので、若い方には若い方なりの、年配の方には年配の方なりの入り口があつてもよいのかなと感じている。

(委員)

30ページの「中学校部活動の運営支援」について、P (Plan) の中の内容で「令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域以降について、関係機関と連携を図りながら検討する」とあつて、D (Do) の中の令和4年度実績で「中学校入学説明会での地域スポーツ団体の紹介を兼ねた説明」とあつるが、どのような説明をされたのか。

また、その説明の中で、中学校部活動が移行するために中学生が地域スポーツ団体の活動に参加できるということなのか、教えていただきたい。

(事務局)

まず、説明の内容としては、令和5年度の10月から段階的に3年間で土日の部活動がなくなっていく、という時期的なもの説明をした。それと合わせて、スポーツ課としてどういったことができるのかということで、地域で既に活動しているクラブにアンケートをとつて、父兄がやっているクラブ、部活動の延長でやっているクラブの一覧表を作り、部活動がなくなって困ってしまう方々に向けて紹介をした。今後も、今あるものをPRしていくことをスポーツ課としてやっていきたいと考えている。

また、逆に地域のクラブがどんどん増えてくるといいが、例えばハンドボールのように地域にクラブがない競技もあるので、そういったところも含めて何ができるのかといったことを学校等に訪問していろんな話を伺っている状況である。具体的な方策はまだ検討段階で、予算要求もこれからさせていただこうと考えている。

(委員)

ちなみに私は軟式野球の代表をやっているが、軟式野球については今年度から全てクラブチームに移行した。新しく入る子にもこういったクラブがあるので入ってくださいと案内する形で既に進めている。

(委員)

ここでいうクラブチームとは、どのような形態をとっているものなのか。

(事務局)

地域で指導者がボランティアでやっているチームのことをクラブチームと表現している。

【全委員了承】

イ 目標値の達成状況について

【事務局説明】資料P 4 1～4 2

【質疑応答】

(委員)

個別目標の市主要スポーツ事業参加者数が増加しているが、3年ぶりに開催したマラソンと駅伝の参加者数が減少傾向にある。それに対して何か具体的な方策を考えられているのか。

(事務局)

まず駅伝については、特に今年度は中学生の参加が少なかったことがあるが、これは開催時期がテスト週間に入っていたということもあった。来年度は時期を1月末に変更させていただいて、中学生の参加を促していきたいと考えている。

マラソンについては、密集することに少し敬遠された感もあった。今回その対策として、当日の受付をやめて、参加の際に必要な物を事前に郵送するなどの対策をさせていただいたが、そういったことの周知が正直うまくできてなかったというのもある。感染対策もしっかりやっていることも併せて事前に広報等で周知させていただきながら、コロナ前の参加者数に何とか近づけていけるように増やしていきたいと考えている。

(委員)

中学生がテスト週間だったという話が出たが、中学生は学校から申込があるのか、個人で申込があるのか。

(事務局)

駅伝の場合は陸上部が出ることもあるし、自分たちでチームを作って申込することもある。

(委員)

ただ、これから中学校部活動がなくなっていくとなれば、また減少傾向の要因になりえるのではないか。

(事務局)

陸上のクラブ等にも参加を促していくことに取り組んでいく必要があると考えている。

(委員)

安城選手権大会夏季水泳競技会辺りが特に子どもが出れないということが顕著に出てきていると思うし、今後どうなるのかとも感じている。

(委員)

自分も水泳協会から競技役員として参加しているが、小学校対抗の大会が無くなったことが一番大きいのではないかと思う。個人での申込になったことや、申込期間が短いというのもあるかもしれない。昔に比べたら活気はなくなってきた。ただ、レベルが高いものもあると思うので、安城選手権は子どもからしても保護者からしてもそうだが、一位になったら賞状がもらえるだけでも大きいことだし、子どもが何かもらえるのは嬉しい。そういったことを今後もやっていただけたら。

【全委員了承】

(2) 第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和5年度事業計画(案)について

【事務局説明】資料P43～44

【質疑応答】

(委員)

2期4年と委員を務めさせていただきこれで終わるので、最後に一言だけ。計画改訂版をしっかりと作っていただき、実績報告の資料も非常に見やすくなって斜め読みするだけでだいたいわかるので非常に良い。評価についても、今年度で言えば全て○なので私から言うことはないが、あとは粛々と計画改訂版に基づき進めていただけたらいいと思う。

30ページの「中学校部活動の運営支援」について、土日の部活動が学校でやらなくなったからと言ってすぐに子どもたちの体力が低下するとは思えないが、体力の向上はいいとしても少なくとも体力の低下だけは何とか防ぎたい。また、運動面でも収入格差の関係でスポーツをやれる子とやれない子が生じることのないように、ある程度税金を投入してでもしっかり進めていただきたい。

(委員)

去年はスポーツ推進委員の事業もかなり実施させていただいた。月曜日の夜はソフトバレーをやっているが、消毒なども自分が怠ってはいけないという思いがすごくあった。それがあって今があると思うし、そのお陰で私自身もコロナにかからなかった。

また、去年のボッチャ体験会で梅村選手が私の目の前で車いすに乗りながらやっている姿を見てすごく感動した。自分たちは五体満足であることに甘えてはいけないと感じた。先日の昭林公民館の祭りで「ニチレクボール」をやったときは結構皆さんに喜んでいただき、またやりたいという声もあった。誰でもできるというところが一番入りやすいのかなと感じた。こういったことを進めていって、少しでもスポーツ人口が増えればいいと思うので、日々頑張っていきたい。

(委員)

老人の立場から言わせてもらおうと、先日もデジタル化について老人クラブの役員と市職員との話し合いの場があった。動ける若い世代の老人の方々は色々な情報を自分たちで得て市の体育館に行ったりしているが、80歳を超えた方々にとってはスポーツ課なのか高齢福祉課なのかと迷うことがある。

また、高齢者にとっては公民館が遠いと感じることもあるので、例えば町内会の事務所などで、何か健康のためにできるようなスポーツを発信してくれると嬉しい。

(事務局)

各地域では「歩けランニング運動」と言って、毎週日曜日の朝などに自分のペースで歩いたりお話ししながら歩くといったことを開催している。

(事務局)

介護予防事業として色々分野はあるが、そちらについては高齢福祉課で発信されることが多い。我々が連携してどこで聞いていただいてもわかるようにしておくという気持ちを持っておくべきだし、聞く前にももっとわかりやすくさせていただくようにしていきたい。

(事務局)

地域での活動で言えば、スポーツ推進委員さんが各地域で活動されている。

(委員)

各町内会で回覧板が回っていて体操やボッチャをやっていたが、先日はさわやか体操というものをやっていた。

(委員)

3期6年と長い間大変お世話になった。思えば最初は、これからオリンピックが来る、安城でそれをどう盛り上げようかという話から始まり、コロナが来てせつかくの盛り上がりには水を差されながらも、一生懸命皆さんが立ち上がって、東京2020を1年送りのできる範囲で頑張ろうという力強い皆さんの固い想いを感じながら、乗り越え、そして今また明るい兆しが見えるところまで拝見させていただいた。やはり市の事業というのは、市民にとっての支えのようであり、健康の柱になると思うので、これからも一市民として応援したい。

【全委員了承】

以上